

古庄幸一 「分を守り、分を尽くす」 海軍カレーを広めた平成の山本五十六

文 高橋 誠

Text by Mac Takahashi

・ 学校法人慈恵大学広報推進室長
・ 医療・健康コミュニケーター

第26代海上幕僚長の古庄幸一氏は大分県竹田高校から防衛大学卒業後、海上自衛隊に入隊、海上幕僚監部広報室長、海幕人事課長、第3護衛隊群司令、護衛艦隊司令官などを経て平成15年、海上自衛官の最高位、海上幕僚長に就き、退任後は内閣府総合海洋政策本部参与として国



竹田市の旧家の蔵から発見された、慈恵創設者・高木兼寛の書「去華就実」を持つ古庄氏(左)。右は高木のひ孫にあたる高木敬三慈恵大学専務理事。高木の全国行脚、明治天皇と高木の関わりなど、明治期のロマンを想起させる。

防戦略の最前線にいます。古庄氏は本誌連載「羅針盤のない島」第5回で、自身も監修に参画した映画「聯合艦隊司令官 山本五十六」(2011年12月公開)に登場する山本五十六を「分を守り、分を尽くす」海軍大将であったと伝えています。

山本五十六は、海軍次官として米國と

の開戦に反対でした。しかし連合艦隊司令長官に就くやいなや一転、短期決戦、講和を目標に「常在戦場」に努め、政治に一切口出ししませんでした。どちらも、「分を守り、分を尽くす」という信念による行動でした。

海軍カレーのルーツとともに海軍史を伝道

今日の海上自衛隊では長い航海でも曜日を誤らぬよう、毎週金曜をカレーランチの日にしています。海軍カレーのルーツは「海軍割烹術参考書」(1908年)のレシピ。このレシピは、麦飯やカレー

でビタミンB₁等をバランスよく補給し、海軍から脚気を駆逐した高木兼寛(海軍軍医総監、東京慈恵会医科大学の創設者)のレシピをアレンジして誕生、故郷に帰還した海兵たちによって全国に広まりました。ちなみに、高木が脚気は栄養の偏りが原因と看破した大規模臨床試験は、明治天皇の寛大なるご支援の賜物でした。古庄氏は海自OBとして横須賀、呉、佐世保で人気の海軍カレーを史実と共に

正しく伝承するという「分を尽くし」、港町の活性化に貢献しています。横須賀出身の小泉進次郎議員は勉強会の土産に「よこすか海軍カレー」を好んで使用しており、伝道活動の成果の一端を垣間見ます。

「去華就実」(「派手な外見は控え、内面を磨け」と戊辰戦争後の国民の気の緩みを戒めた明治天皇の質実剛健のご気質、山本五十六の信条、高木の進取の気風は、古庄氏を通じて脈々と今に息づいています。



Profile

学校法人慈恵大学広報推進室長。医療・健康コミュニケーター。東京生まれ横浜育ち。慶応義塾大学経済学部卒。ミスノ広報宣伝部、リクルート宣伝企画部、米国SPBC社New Design Conceptor (LA在住12年)、仙生露Executive PR Adviser、富士1ばんゴルフ副支配人/経営企画室長/広報室長を経て、2004年より現職。日米複数企業における広報・マーケティング経験から、難解な医療・健康をわかりやすくメディア・社会に伝えるべく、病院広報担当者間の勉強会「病院広報研究会」を立ち上げ、医療・健康コミュニケーション活動を研究中。趣味はゴルフ(Hdc9)、ワイン(日本ソムリエ協会ワインエキスパート#58)。

Medicine Health
医療・健康分野のスーパーパイオニアたち